

## 第2回第11採択地区教科用図書採択協議会 議事録

|       |                |       |          |
|-------|----------------|-------|----------|
| 開催年月日 | 令和2年7月14日(火)   |       |          |
| 開催場所  | 坂戸市立教育センター 研修室 |       |          |
| 開催時間  | 13:30 ~ 16:30  |       |          |
| 教育委員会 | 出席者            |       |          |
| 坂戸市   | 安齊 敏雄 教育長      | 小川 一信 | 教育長職務代理者 |
| 鶴ヶ島市  | 松井 克彦 教育長      | 石澤 良浩 | 教育長職務代理者 |
| 毛呂山町  | 栗田 博 教育長       | 清水 宅郎 | 教育長職務代理者 |
| 越生町   | 吉澤 勝 教育長       | 原口 仁  | 教育長職務代理者 |
|       | 事務局            |       |          |
|       | 教育部長           | 谷口 義明 |          |
|       | 学校教育課長         | 小峰 大吾 |          |
|       | 副課長            | 新井 藤子 |          |
|       | 指導主事           | 秋元 政康 |          |

第2回第11採択地区教科用図書採択協議会 議事録

|                      |   |
|----------------------|---|
| 1 開 会                | (司会) 坂戸市教育委員会学校教育課長   |
| 2 あいさつ               | (会長)  |
| 3 日程等について            | (司会)  |
| 4 教科用図書研究結果の報告及び質疑応答 | <p>(議長)〈議長は会長が務める〉<br/>         本日の議長を務めさせていただきます。協議が慎重に進められ、適切な選定がなされますよう、ご協力をお願いします。</p> <p>本会議については、全て公開とすると決定しております。<br/>         したがって、本日の会議は、非公開とすべき項目はないということで進めてまいります。</p> <p>(議長)<br/>         それでは、次第4 「専門員の教科用図書研究結果の報告及び質疑応答について」に入ります。これから、中学校各教科の研究結果報告を行います。社会歴史分野において株式会社学び舎からは調査研究用の教科書見本が提供されなかったため、第11採択地区での調査研究は行われておりません。しかし、教科書目録には掲載されておりますので、選定の対象には含まれております。埼玉県からの調査資料には掲載されておりますので、判断の際に参考にさせていただきよう、よろしくをお願いします。</p> <p>(議長)<br/>         それでは、これより各教科の研究結果報告を行います。<br/>         国語について説明をお願いします。</p> <p>(専門員)<br/>         まず、「国語」では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点は2つ設定いたしました。<br/>         観点1としましては、「課題解決学習のための具体的な手立てについて」です。これは、「単元の目標に即した指導に効果的であるか」という視点で検討したものです。</p> |

もう1つの観点2としましては、「特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインへの配慮について」です。これは、「理解に困難を感じる生徒に対する指導に効果的であるか」という視点で検討したものです。そして「その他」を加えました。

その結果につきましては、お手元の報告書にまとめてございます。

それでは、発行者ごとに調査研究結果をご報告申し上げます。

まずは「東京書籍」です。

はじめに、観点1「課題解決学習のための具体的な手立てについて」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、各教材での「言葉の力」により、「読む」「書く」「話す」「聞く」の活動に具体的に組み込むための学習ポイントがわかりやすくなっている、という点です。

デメリットといたしましては、単元の始まるページに目標が記載されておらず、単元によっては終わりのページである「てびき」の部分記載されてる場合があることから、単元の目標を明示する工夫が必要である、という点です。

次に、観点2「特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインへの配慮について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、設定を固定した複数の案内キャラクターを導入しての解説により、読むことに抵抗のある生徒の理解を助けることができる、という点と、

教材の本文中に出現する新出漢字だけでなく、その他読み方に抵抗のある既習漢字等にも振り仮名が付けられている、という2点です。

「その他」としましては、文章の各行の下端にある5行ごとの行数表示以外に、行を示す「・(なかぐろ)」が表示されて、行数を的確に把握することができる、という点が特徴となっております。

つづいて、「三省堂」についてご報告いたします。

はじめに、観点1「課題解決学習のための具体的な手立てについて」のご説明をいたします

メリットといたしましては、「学びの道しるべ」によって学習の流れがはっきりすることで、「読みを深める」ことから更に「自分の考えを深める」ことへつながりを意識できる、という点です。

デメリットといたしましては、教材の目標は初めに提示されてはいますが、単元の目標が具体的に示されていないことによって、単元ごとの目標を明示することで各教材の関連を明確にする工夫が必要である、という点です。

次に、観点2「特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインへの配慮について」のご説明をいたします。

デメリットといたしましては、様々な色彩を活用することで見分けやすくする意図はくみ取ることができますが、視覚的な刺激が他の教科書に比べて強くなり、授業中の生徒の集中力が低下する可能性が高い、という点と、

使用されている活字が小さい上、本文の1ページあたりに表記されている行数と、1行あたりの文字数が多いことから、読み取りに困難を感じる生徒にとっては大きな抵抗になってしまうおそれがある、という2点です。

参考としまして、東京書籍は36字×17行、三省堂：40字×18行、教育出版：37字×16行、光村図書：35字×17行となっております。

「その他」としましては、巻末資料に示されている「品詞分類表」の品詞名の配列が、他の教科書とは異なっている点が特徴です。

つづいて、「**教育出版**」についてご報告いたします。

はじめに、観点1「課題解決学習のための具体的な手立てについて」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、「学びナビ」「みちしるべ」により、既習事項を他の教材で活かすことができる上、読解する際の注意点・着眼点が具体的に示されている、という点です。

デメリットといたしましては、教材ごとの目標は明示されています

が、単元ごとにはテーマのみの設定でとなり、具体的な目標を明示する工夫が必要である、という点です。

次に、観点2「特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインへの配慮について」のご説明をいたします。

メリットは、学年ごとに基調となる色が統一して使用されていることから、視覚的刺激が少ないながらも、カラーの挿絵を脚注に多用して理解を助けている、という点です。

デメリットは、脚注欄で扱っている語句の本文での行数が明示されていないことから、本文での確認に手間取ってしまう上に、新出漢字については、その読み仮名も単元末に一括表示となっている、という点です。

「その他」としましては、巻末資料に示されている「品詞分類表」の品詞名の配列が他の教科書とは異なっている点が特徴です。

最後に、「**光村図書**」についてご報告いたします。

はじめに、観点1「課題解決学習のための具体的な手立てについて」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、教材ごとに用意されている「学習の窓」で、学習を通して身に付けるポイントが具体的に示されていることに加えて、巻末でも一覧表が用意されているため、生徒が自主的に振り返ることができる、という点と、各単元の「目標」が、始めのページに「読む」ことなどの具体的な観点と併せて示され、さらに単元の終わりには授業の流れがまとめられている、という2点です。

次に、観点2「特別支援教育を視野に入れたユニバーサルデザインへの配慮について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、文法の解説部分において、重要語句を赤字で表記しているため、視覚的に捉えることが用意である、という点です。

デメリットといたしましては、古文の単元で本文に併記されている現代語訳の区別が、字体(フォント)の違いだけであるため、文字色を変

える等、混同を避ける工夫が必要である、という点です。

「国語」のご報告は以上となります。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

読書活動の充実のためになされている工夫はどのようなものがございますか。

(専門員)

各者それぞれに読書案内や読書単元、資料を活用して様々な本を紹介するとともに、ポップづくりや読書レポート、ビブリオバトル、ブックトークといった取組により、社会生活とつながる読書活動の指導が用意されております。

(議長)

引き続き、書写について説明をお願いします。

(専門員)

こちら4者についての調査研究を行いました。調査研究の観点は2つ設定いたしました。

観点1としましては、「主体的な学習を支える構成・資料について」です。これは、「生徒の生活に即した、具体的に取り組みやすい教材か」という視点で検討したものです。

もう1つの観点2としましては、「書写における基礎的・基本的な技能について」です。これは、「行書指導に関して具体的に資料を提示しているか」という視点で検討したものです。そして「その他」を加えました。

その結果につきましては、お手元の報告書にまとめてございます。

それでは、発行者ごとに調査研究結果をご報告申し上げます。

まずは、「東京書籍」です。

はじめに、観点1「主体的な学習を支える構成・資料について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、「書写のかぎ」で、文字の上達ポイントが示されており、生徒自身で主体的に確認作業に取り組むことができる、という点です。

デメリットといたしましては、生徒が自主的に書き込むワークシート形式の教材よりも、視覚的な資料教材が多く、実際に文字を書いて確認するための内容を工夫する必要がある、という点です。

次に、観点2「書写における基礎的・基本的な技能について」のご説明をいたします。

特に行書の単元において「点画の省略」と「筆順の変化」について、練習課題が同じページ用意されているために、自主的に確認しながら学習に取り組むことができる構成になっている、という点です。

デメリットといたしましては、行書の運筆がイラストによる提示のため、筆遣いがわかりやすくなる工夫が必要である、という点です。

「その他」といたしましては、教科書のサイズがB5ワイドという、他の教科書よりも大きいため他教科の教科書と併せての持ち運びが不便に感じる事もある、という点と、国語の教科書で扱う文章が練習の教材として取り上げられている、という点が挙げられます。

つづいて、「三省堂」についてご報告いたします。

はじめに、観点1「主体的な学習を支える構成・資料について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、行書の単元で、国語の授業に関連した言葉や日常生活で使用する言葉、「日常の書式」による生徒の生活に即した教材を工夫している、という点です。

デメリットといたしましては、行書指導の際に、行書の特徴を説明している同じページに練習する欄を設ける等、手本を参照にしながらの練習に取り組みやすくする等の工夫が必要である、という点です。

次に、観点2「書写における基礎的・基本的な技能について」のご説明をいたします。

メリットは部分別行書一覧表があり、部首やつくりの書き方を個別に確認できるため、行書の字形のイメージがつかみやすい、という点です。

デメリットは、行書の筆遣いについて具体的に触れているのですが、具体的にわかりやすくするためには、イラストでの提示ではなく、他の方法を工夫する必要がある、という点です。

「その他」といたしましては、映像資料の提示にQRコードを導入している、という点です。生徒の興味を引き、自主的な学習につながる反面、対応機器を所有していない家庭では、不利益になる恐れがある両面の特徴があります。

では、「**教育出版**」についてご説明いたします。

はじめに、観点1「主体的な学習を支える構成・資料について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、「手紙」や「はがき」、「入学願書」「原稿用紙の書き方」など、身の回りの多様な表現に目を向け、日常生活で活用できる資料が充実している、という点です。

デメリットといたしましては、生徒が自主的に書き込むワークシート形式の教材よりも、視覚的な資料教材が多く、実際に文字を書いて確認するための内容を工夫する必要がある、という点です。

次に、観点2「書写における基礎的・基本的な技能について」のご説明をいたします。

メリットは、行書の筆遣いに朱墨を使っていることで、行書の筆の動きの基本をわかりやすく、具体的に確かめることができる、という点と、楷書、行書が同じ文字で対比して提示されていることで、見比べることで行書の特徴を理解するのに容易である、という2点です。

「その他」といたしましては、教科書のサイズがB5ワイドという、他の教科書よりも大きいため他教科の教科書と併せての持ち運びが不便に感じる事もある、という点と、「書写テスト」が教科書内に用意されており、3年間の学習成果を確認することができる、という点



が特筆すべきことです。

最後に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに、観点1「主体的な学習を支える構成・資料について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、2ページ見開きの手本が多く準備されており、半紙を使用する際の指導の際にそのまま活用できる、という点と、

取り外せる「書写ブック」が付属しており、家庭での自主的な学習や提出の際に利便性があるという2点です。

次に、観点2「書写における基礎的・基本的な技能について」のご説明をいたします。

メリットといたしましては、穂先のみで朱墨を使った書き方を併記することで、筆使いが視覚的に捉えやすくなっている、という点と、行書の練習で、「点画の省略」や「筆順の変化」など、注目させたい箇所について、色を使い分けることで視覚的に理解を助ける、という2点です。

「その他」といたしましては、映像資料の提示にQRコードを導入している、という点です。生徒の興味を引き、自主的な学習につながる反面、対応機器を所有していない家庭では、不利益になる恐れがある両面の特徴があります。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

現在の子供たちの置かれた環境では、パソコン等の普及によって書く機会が不足しているようにも思えるが、教科書においては、書写の基本的な技能の修得に関して、各者の工夫はどのようなものがありますか。

(専門員)

各者とも「姿勢・筆記用具の持ち方」では写真を用いて解説している。また、資料として漢字一覧表を用意し、楷書体、行書体のどちらも提示しています。

(議長)

社会・地図について説明をお願いします。

(専門員)

これより、社会科調査研究の結果として、歴史分野、地理分野、公民分野、地図帳の順でご説明いたします。

歴史・地理・公民の3分野についての調査研究の観点といたしましては

「見方・考え方を働かせながら、課題に対して自分の言葉でまとめる学習の工夫について」

「資料の種類、資料提示の表現やその説明文章の適切さについて」

「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。地図帳についての観点につきましては、後ほどご説明いたします。

はじめに、歴史分野では6者について、調査研究を行いました。それでは、「東京書籍」についての調査研究結果を観点に沿って主なものをご報告申し上げます。はじめに「【観点1】」については、各章のまとめにおいて様々なまとめ方を紹介しており、生徒が思考力を身に付けるためへのヒントが豊富に盛り込まれております。次に、「【観点2】」については、「みんなでチャレンジ」「スキルアップ」(集める・読み取る・まとめる)など、生徒が自主的に考えを深めることができるコーナーが適切に設けられております。最後に「その他」については、資料、本文ともに適切な量で掲載され、ページ数も適切である。生徒が扱いやすいようコンパクトにまとめられております。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。「【観点1】」については、各章のまとめがどれも同じようなまとめ方で記載されているため、様々な視点でとらえたまとめ方を紹介するなどの工夫が必要であると思います。【観点2】については、各時代の最初に記載さ

れている「学習を始めよう」において、資料を参考にしながら当時の様子を考えさせる問いが設けられており、生徒の興味・関心を高めるようになっております。「その他」については、ページ数は適切であるが、余白の部分がかなり見られるページがあり、レイアウトを工夫など、コンパクトにする工夫が必要であると思われま

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。「【観点1】」については、各時代において、初めの「タイムトラベル」で当時の生活の様子をイラストで紹介し、疑問点を示し、見開きで「確認しよう・説明しよう」という流れが分かりやすいです。「【観点2】」については、単元や項目によって資料の情報量についての差が大きく、情報量の少ない単元においては、十分な理解度が得られない部分があり、資料の精選が必要であります。「その他」については、レイアウトや資料の配置も工夫されており、適切なページ数であるため、コンパクトで扱いやすくなっております。

次に、「山川出版社」についてご説明いたします。「【観点1】」については、本文の説明が多く、関連する資料が少ないので、生徒が自分の言葉で自分の言葉でまとめやすくするために、文章の精選や視覚的にトラされる資料の提示についての工夫が必要であると考えます。「【観点2】」については、グローバル化を意識し、日本史と世界史の関連性を中心とした考え方についての資料提供が豊富に示されています。「その他」については、ページ数が適切であり、コンパクトにまとめられているが、難解な言葉が多く、内容的に難しく感じられます。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。「【観点1】」については、資料が大きく見やすいが、本文の情報量が少なく、生徒がまとめる際に読み取る文章の情報量についての工夫が必要であると考えます。「【観点2】」については、各ページの右端に「時代・世紀のスケール」が記載されており、生徒がその単元と時代をすぐに結びつけることができ、資料を読み取る際に役立ちます。「その他」については、ページ数が多く、生徒がやや扱いにくいと思われま

最後に、「育鵬社」についてご説明いたします。「【観点1】」については、「表現の仕方」や「まとめ方」の文言や資料について、生徒にとって難しい表現での記載があり、工夫が必要であります。「【観点2】」については、「“虫の目”で時代の特色をつかむ」という項目を設けて、各時代を象徴する資料を提示することで、生徒の

学習に対する興味・関心を高めてあります。「その他」については、ページ数が多く、生徒がやや扱いにくいと思われます。

次に、地理分野では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点は、歴史分野と同様でございます。

それでは、「東京書籍」についての調査研究結果を観点に沿って主なものをご報告申し上げます。「【観点1】」について、「集める・読み取る・まとめる」のコーナーを豊富に設け、見方・考え方を十分に働かせて、生徒が効果的に学ぶことができる構成になっております。「【観点2】」については、単元の背景をつかむために必要な資料や写真・図が適切な量で提示されており、説明文と資料の連携も適切であります。「その他」については、資料、本文ともに適切な大きさや量で掲載され、ページ数も適切であります。生徒が扱いやすいようコンパクトにまとめられています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。「【観点1】」については、自分の考え方について、見方・考え方を働かせる項目が明確に示されており、スムーズに取り組むための工夫がされています。

「【観点2】」については、資料に関する文章での説明が長いため、理解するまでに時間がかかると思われます。資料に関連した写真や図の掲載がもう少しあるとよいです。「その他」については、資料、本文ともに適切な大きさや量で掲載され、ページ数も適切であります。生徒が扱いやすいようコンパクトにまとめられています。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。「【観点1】」については、記述の内容について、やや難しく表記されている部分もあるため、生徒が文章を読み取り、まとめに向かうことが難しい單元もあります。「【観点2】」については、地図と資料の組み合わせが効果的に配置されている部分が多く、空間的な把握を通して、分かりやすく資料を読み取ることができます。「その他」については、資料、本文ともに適切な量で掲載され、生徒が扱いやすいようコンパクトにまとめられています。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。「【観点1】」については、「チャレンジ地理・学習のまとめ」において、単元を統括して自分の言葉でまとめやすい表で構成されており、主体的な学びにつながりやすい構成になっております。「【観点2】」については、身近な地域の調査の單元において、説明文が多く本文に関連

した資料が少ないです。必要な資料が掲載できるよう、レイアウト等の工夫が必要であると考えます。「その他」については、資料、本文ともに適切な大きさや量で掲載され、ページ数も適切であります。生徒が扱いやすいようコンパクトにまとめられています。

続いて、公民分野では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点とは、歴史・地理分野と同様でございます。

それでは、「東京書籍」についての調査研究結果を観点に沿って主なものをご報告申し上げます。「【観点1】」について、章の始めと章末に、導入の活動を通した探求課題と、探求のステップからまとめまでの流れが示されており、自分の言葉でまとめやすく構成されています。「【観点2】」については、各学習内容について、関連している日本国憲法がレイアウトで見やすく示されており、生徒がすぐに関連性を結びつけることができるようになっております。「その他」については、色覚特性の観点から、紙面や図版において、カラーユニバーサルデザインに対応してあります。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

「【観点1】」については、章ごとにおける課題の提示やまとめについて、生徒が自分たちで取り組む活動の紹介がやや少ないため、工夫が必要である。「【観点2】」については、各ページに、小学校の内容との関連や地理・歴史的分野との関連や関連している分野もしめされています。「その他」については、カラーユニバーサルやユニバーサルデザインフォントを使用する配慮がなされています。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。「【観点1】」については、導入の活動が充実しており、章末には見方・考え方を働かせながらステップを踏んで、各章の答を自分の言葉でまとめることができるようになっております。「【観点2】」については、グラフがやや小さく、資料からの読み取りや活用に時間がかかると思われます。グラフを大きめにするなど、レイアウトに工夫が必要です。「その他」については、1ページあたりの紙の重さが現行版よりも約5%軽く、ページ増による重さの負担が抑えられています。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。「【観点1】」については、章ごとの単元を貫く課題が明確に示されていないため、単元の流れが意識しにくくなっております。「【観点2】」については、各項目において、イラストや漫画を随所に挿入して事象や

資料を説明しており、親しみやすく興味・関心を高めることができますと考えます。「その他」については、拡大教科書も発行されており、通常の教科書の文字を拡大するとともに、写真や図版も再度レイアウトすることができるようになっております。

次に、「自由社」についてご説明いたします。「【観点1】」については、見方・考え方やまとめ方についての記載が少ないため、各章や節ごとの課題が意識しにくく、工夫が必要であります。「【観点2】」については、西洋の思想家や政治家が多く紹介されており、世界を通した人権思想や憲法の背景が理解しやすいと思われれます。「その他」については、図版の文字の中でやや太めの文字の箇所がいくつかあり、全体を通して視覚的に読みにくい印象を受けるため、工夫が必要であります。

次に、「育鵬社」についてご説明いたします。「【観点1】」については、公民における見方・考え方や、章全体の学習課題が明確に示されている部分が少なく、自分の言葉でまとめることへの意識づけが難しいと考えます。「【観点2】」については、地理的分野・歴史的分野との関連について、具体的な事項を挙げた説明が記載されており、関連性が見えやすくなっております。「その他」については、ふりがなにゴシック体を用いており、小さな文字が読み取りにくい生徒も読み取りやすいように配慮してあります。

最後に、地図帳では2者について、調査研究を行いました。地図帳についての調査研究の観点といたしましては「地形図や分布図、地勢図として活用する場合の、色合いやグラフ、国名標記などの適切な表現について」「各分野の学習内容とのつながりについて」「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」についての調査研究結果を観点に沿って主なものをご報告申し上げます。「【観点1】」について、テーマごとに「資料さくいん」を設けており、学習内容に応じて必要な資料を簡単に検索することができます。しかし、見開きの鳥瞰図が、日本との関わりが深い「アジア・ヨーロッパ・北アメリカ」のみであり、他の3州には鳥瞰図がございません。「【観点2】」については、イスラム圏を一望できる「西アジア・地中海周辺的一般図」など、地域的なつながりを重視した図取りの一般図が掲載され、歴史や公民の学習と関連した活用ができるようになっております。「その他」について、

冒頭に、地図帳の活用方法についての記述が少なく、地図の種類や用途、索引や統計資料の使い方などのオリエンテーションにおける工夫が必要であると考えます。

次に、「帝国書院」についてご説明いたします。「【観点1】」について、日本地図では、地域の生活や産業が見える土地利用表現と土地の高さがわかる等高段採表現を併用し、多面的・多角的な視点から各地域の特色がつかみやすくなっております。「【観点2】」については、鳥瞰図に、江戸時代の五街道や航路を示すなど、歴史年表や当時の地図など豊富に資料を取り入れており、歴史分野の様々な学習で活用できるようになっております。また、現代社会における課題についての資料が豊富で、公民的分野の様々な学習でも活用することができるようになっております「その他」について、A4判に拡大され188ページに増えたが、15%軽い紙を採用することで、重さは505gに抑えられております。厚みも抑えられているので、見開きで使用した際にも見やすくなっております。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

3つの分野を関連付けるために、どのような工夫がされていますか。

(専門員)

関連している資料や特設ページを設けたり、関連するマークを設定するなど3分野で系統的な学習ができるように工夫されています。

(議長)

数学について説明をお願いします。

(専門員)

数学科では、7者について、調査研究を行いました。調査の観点1として、「数学的な活動の事例について」観点2として「学びのガイド、学びの広がりについて」、「その他」の3つを設定した。その結果につきましては、お手元の報告書の通りです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに、「観点1」についてご説明いたします。3年1章の導入の題材「ドミノ倒し」や、5章の導入の題材「タブレットやスマホの画面」を例に挙げ、生徒が身近に感じ、興味を引き、イメージしやすいです。また、「学びをひろげよう」では、数学と実社会や職業との繋がりを伝え、数学の有用性を実感できる内容を扱っています。そして、データの分析方法やレポートの作成方法の紹介や、論点を明らかにした上での話し合い活動があり、思考力・判断力・表現力の育成に繋がっています。

次に「観点2」についてご説明いたします。「問」には、例と似た型の問題に「◆（ダイヤモンド）」がついており、生徒のつまずきに対応しています。また、「深い学び」がほぼすべての章に設定しており、問題発見・解決の過程が示されおり、ヒント等のページが区切られるなどの工夫がされています。そして、実生活や他教科の学習など様々な場面を題材とした章末の「活用の問題」では、分量や情報量が多く、また、「記述式問題」が豊富に用意されています。巻末の解答には「考え方」や「説明のポイント」が設けられていてわかりやすいです。

最後に「その他」についてご説明いたします。

情報量が適切で、余白が十分にあり、生徒が集中して学びやすい構成となっています。節の導入では、書き込んで考えることもできるようになっています。

また、デジタルコンテンツは、量が多く、自分でシミュレーションができるなど、デジタルの特徴を活かしたものが充実しています。

続いて、「大日本図書」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」について主なものについてご説明いたします。

3年1章の導入では、学校の花壇に関する事象を取り上げ、生徒が身近に感じる題材が取り上げられています。しかし、3年5章の導入で、相似についての題材が写真3枚の拡大・縮小のみであり、生徒の興味を引かせるには授業者の工夫が必要です。

次に「観点2」についてご説明いたします。「例」や「例題」→「たしかめ」→「Q（問題）」→「プラス・ワン」のようにスモールステップになっているため、個に応じた指導ができます。また、「学びにプラス」や数学の世界をさらにひろげる課題学習、発展的な学習などの問題や読み物などが充実しています。しかし、「活動」は機械的な質問で構成されており、解説が少なく、生徒一人で教科書を進めることが難しいため、授業者の工夫が必要です。



最後に「その他」についてご説明いたします。デジタルコンテンツは、量が多く、自分でシミュレーションができますが、生徒が家庭で使用するには難しいものもあり、工夫が必要です。また、他教科との関連を配慮した構成になっています。

続いて、「学校図書」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」について主なものについてご説明いたします。3年4章の導入では、オリンピックのスキージャンプを題材とし、身近な事象を数学化して扱っています。しかし、3年2章の平方根の利用で、A判とB判の紙の違いを扱っていますが、授業の際に生徒の興味をひくために授業者の工夫が必要です。

次に「観点2」についてご説明いたします。「数と式」の領域においては、「計算力を高めよう」において、基本的な計算問題が豊富に用意されています。また、「Tea Break」では、生徒が抱きそうな疑問が紹介され、知識をより深めたり、学年の枠を超えた数学に触れたりすることができます。しかし、章末には「活用問題」があり、環境や日常生活の場面で数学を活用する問題がありますが、巻末の解答には解説がないため、指導に工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードが教科書の随所に設けられており、授業や家庭学習のサポートなどに利用できます。しかし、ICTの利点を活かすためには改善の余地があります。なお、巻末にはホワイトボードマーカーで書いたり消したりできる「アイデアボード」が用意されており、話し合い活動や発表時などに活用できます。

続いて、「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」主なものについてご説明いたします。3年1章の導入では、カレンダーを扱い、生徒の身近なものから数学的思考に繋がる工夫がされています。また、「数学の広場」で、数学に関連する知識、数学の歴史的・文化的な話題を取り上げられ、また、社会性を養えるよう職業における数学の活用についても取り上げられている。

次に「観点2」についてご説明いたします。「例」や「例題」をなぞった「たしかめ」が用意されており、また、誤りを正す問題が充実していて、個々のつまずきに対応しています。また、「学習のプロセスページ」では、問題発見・解決の数学的活動のプロセスをじっくり、丁寧に踏まえており、数学を活用していく流れがわかりやすいです。しかし、巻末の補充問題は「実力アップ問題」が設けられ、個に応じた問題が豊富に用意されていますが、解答には解説がないため、

指導に工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。章の入口にはその章に関連する既習内容を確認する問題を、出口にはその章で学習した基礎的・基本的な内容がまとまったページが設けられています。

また、「まなびリンク」で、QRコードが示されており、無料で使えるデジタルコンテンツを用意し、動画やアニメーションを見ることができますが、扱っている題材の数が少ないです。

続いて、「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」についてご説明いたします。3年1章の導入ではトランプマジックを扱い、生徒同士で活動しながら、事象を数学化する内容となっています。また、「学びをいかそう」では、実際の社会と関連する題材を扱い、既習の内容からのひろがりを実感できるよう展開が工夫されています。しかし、3年5章の導入で、相似についての題材が写真を拡大・縮小させた3枚のみであり、生徒の興味を引かせるには授業者の工夫が必要です。

次に「観点2」についてご説明いたします。章末問題が充実しており、そのページにあるQRコードにはすべての問題の考え方と解説が用意されているなど、生徒のつまずきに対応しています。また、裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」には、復習問題、発展問題等の学びをひろげる教材が豊富に用意されています。さらに、利用の節などで、問題解決までの流れがわかりやすく示されており、「説明しよう」等、言語活動を充実する場面が適宜設けられています。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードが教科書の随所に設けられており、授業や家庭学習のサポートに利用できます。しかし、デジタルの利点を活かすためには改善の余地があります。また、自分の考えを数学の言葉でまとめて伝えたり、他者の考えを参考にして、整理しながら学習を進めていける工夫がされています。

続いて、「数研出版」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」ご説明いたします。1年5章の作図の導入では、ゲームをモチーフにした課題を扱い、生徒の興味をひきやすくなっています。しかし、3年5章の導入で、相似についての題材が画像3枚のみであり、生徒の興味を引かせる工夫が必要です。さらに、各章の導入の題材に対しての広がりが少なく、生徒の興味をひかせるには授業者の工夫が必要です。

次に「観点2」について主なものをご説明いたします。キャラクターによる対話で、課題を進める過程、間違いを正す活動、解き方を比較する活動、ヒントなどが豊富に掲載されているため、生徒一人でも

抵抗なく読みやすい構成となっています。また、各章のはじめには既習学習の振り返りが用意されており、その章に必要な知識の確認ができるようになっていきます。しかし、問題数はやや少ないため、知識・技能の定着や発展学習には授業者の工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードが示されており、動画やアニメーションを見て学ぶことができます。また、補充問題が用意されており、クイズ形式で学習を進めることもできるよう工夫されています。また、他教科との関連を配慮した構成になっています。

続いて、「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに、「観点1」について主なものについてご説明いたします。文字式の活用で、「対話シート」を使用して基石を並べる問題から、様々な考えをひきだし、他者の考えを参考にし、表現のしなやかさを練り上げることができます。しかし、3年6章の導入で、円の性質について既習事項を扱って進めていますが、導入としての生徒の興味関心をもたせるには授業者の工夫が必要です。

次に「観点2」についてご説明いたします。新しい章に入る前に、既習事項を確認するページが用意されています。また、「問」などには「考えよう」「話し合おう」「深めよう」「説明できるかな？」などのマークがついたものがあり、数学的活動を通して思考力、判断力、表現力等を育成しつつ、学習の流れがわかりやすいように工夫されておりよいです。しかし、側注の「チャレンジ」で追加問題が用意されていますが、活用する問題等がやや少ないため、学習が進んでいる生徒や学びをひろげる指導には工夫が必要です。

最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードが示されており、動画やアニメーションを見ることができます。また、一問一答形式の問題があり、家庭学習に活用できます。他教科との関連を配慮した構成になっています。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

学びに向かう力、いわゆる学ぶ意欲を涵養するための工夫を各教科書でどのように扱われていますか。

(専門員)

学習意欲を高めるため、各者とも生徒が興味を持ちそうな実社会の事象を取り上げてございます。なかには、現実には起こりそうな身近な事象を、数学で解決できる題材として組み込む工夫がなされているものもございます。章末で数学に関する読み物や歴史的、文化的な話題を取り上げ、生徒の興味・関心を高める工夫がなされております。

【休憩】

《休憩》

(議長)

理科について説明をお願いします。

(専門員)

理科では5者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「思考の流れ」、「実験・観察」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「【東京書籍】」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「【観点1 思考の流れ】」についてご説明いたします。

「問題発見から活用」までの流れが統一されていてよいと思いますが、指導書のように情報量が多く、もう少し生徒に考えさせるような、ていねいな思考の流れの工夫が必要であると思いました。

「つながる科学」や「発展」では漫画などを用いて子どもたちの興味・関心を引くように工夫されており、幅広く発展的に学ぶことができ、また写真なども多く使われ、子どもたちの興味・関心が高まり、学習意欲の喚起につながると感じました。

次に、「【観点2 実験・観察】」について、主なものをご説明いたします。

実験と実験の間に生徒の思考をつなげる補足すべき実験や、理解を深めるための追加実験、発展的な実験も取り入れ、生徒の思考力・理解力をつなげ高める工夫が必要だと思いました。

実験のページで、右ページに実験手順がぎっしり提示されていて文字が多すぎると感じました。安全で正確な実験観察に向け、「注意」や「鍵」の部分の文字を大きくするともっと見やすいと感じました。最後に「【観点3 その他】」についてご説明いたします。

QRコードは、それぞれ関連するページに記載するほうが検索しやすいと感じました。

「結論を表現しよう」は大変レベルが高く難しい内容だと感じました。

「活用」の解答がどこにあるかよくわかりませんでした。

次に、「【大日本図書】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1 思考の流れ】」についてご説明いたします。

学習の流れがわかりやすく、見通しを持って学ぶことができる構成になっていました。問題解決の能力を意識して学習できる構成に工夫されていました。子どもたちの「思考」を丁寧に考えてつくられていると感じました。

親しみやすい身の回りに関連があるもの、科学への夢をもてるような写真や資料を掲載して、「知りたい」「学びたい」という知的好奇心を高められるように工夫されていました。

次に、「【観点2 実験・観察】」について、主なものをご説明いたします。

「目的」「着眼点」がきちんと示され、見通しを持って実験・観察ができ、「結果の整理」「結果から考えよう」で、考察・振り返りの視点がわかりやすくなっていました。実験に関しても丁寧に「積み上げ」を大切につくられているのを感じました。

ノートやレポートの書き方を具体的に例示しながら丁寧に解説されていますが、さらに写真や挿絵等を増やしてわかりやすくする工夫が必要であると思いました。

最後に「【観点3 その他】」についてご説明いたします。

QRコードは、それぞれ関連するページに記載するほうが検索しやすいと思いました。

「つながる」で他教科との関連がわかりやすくかかれています。

「Professional」では、関連する職業について掲載し、子どもたちの興味・関心が高められると思いました。

次に、「【学校図書】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1 思考の流れ】」についてご説明いたします。

「気づき→課題設定→仮説→検証計画→観察・実験(方法)→結果→考察→振り返り→伝える」と、学習の流れはよいと思いました。情報量が多く、その分まとめの欄が小さく、子どもたちが「考える」ことの工夫が必要であると思いました。

実験後のまとめの文章や図の中に、普段の生活で見ると、機械や食品などを例に挙げた資料が提示されていて、科学的な事象を身近に感じることができると思いました。

次に、「【観点2実験・観察】」について、主なものをご説明いたします。

「気づき→課題設定→仮説→検証計画→観察・実験(方法)→結果→考察→振り返り→伝える」というように流れがわかりやすく、各実験に探究の進め方が提示されていて学びやすいと思いました。

実験の挿絵自体が詳しくわかりやすいのですが、実験結果を出す前に、挿絵で結果がわかってしまうことがあるため、挿絵の内容を工夫する必要であると感じました。

最後に「【観点3その他】」についてご説明いたします。

QRコードを活用し、その章の振り返りが確認できるところが優れていると思いました。

単元のサブタイトルが身近で親しみを感じました。

探究の「Can do it」「振り返ろう」「つなげよう」が工夫されていてよいと思いました。

次に、「【教育出版】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1思考の流れ】」についてご説明いたします。

各実験に入る前の仮説で、イラストの吹き出しにて、仮説のヒントを提示していますが、詳しく書き込まれている場面もあり、生徒自らの仮説設定が難しく工夫が必要であると感じました。

「ハローサイエンス」としてコラムが充実していました。その章ごとの発展内容が詳しく提示されており、子どもたちの興味・関心を引き出すものとなっていました。

次に、「【観点2実験・観察】」について、主なものをご説明いたします。

各単元の内容理解のために、押さえておきたい主要な実験はしっかりとあるのですが、実験と実験をつなぐ補足すべき小さな実験が不足しており、工夫が必要だと感じました。

「やってみよう」で実験のやり方も丁寧に記述され、わかりやすく有用な絵やイラストが多いので、生徒の興味・関心を喚起できるように工夫されていると感じました。

最後に「【観点3その他】」についてご説明いたします。

ページの左端から右端にかけて文字が多く、行間も狭いので読みにくく感じました。

巻末資料が工夫されていて、子どもたちの探究心をかき立てるものだと思います。

有用な挿絵が多いのですが、小さいものが多く、大きく提示することで、さらに有効活用できると思いました。

次に、「【啓林館】」についてご説明いたします。  
はじめに「【観点1思考の流れ】」についてご説明いたします。  
「教えること」と「考えさせたいこと」が明確でわかりやすく感じました。「既習事項の確認」と「必要な情報」後に、全ての生徒が平等に次の課題に対して、科学的思考が育まれる積み上げの構成が丁寧につくられていると思いました。  
「つながる学び」では小学校・高校の学習との関連性が明示されていてわかりやすいと感じました。「科学コラム」では部活や料理、防災等の日常と関連付け、理科を学習する有用性を感じられました。  
次に、「【観点2実験・観察】」について、主なものをご説明いたします。  
「大きな実験」と「課題解決に迫る為の小さな実験」が科学的思考に沿った配列となっていてよいと思いました。生徒目線で「私のレポート」が提示され、結果を一人でまとめる手助けとなっていました。  
「実験のスキル」での操作確認や、「けが注意」での細かな配慮により、安全で正確に実験ができると思いました。説明の絵や写真が鮮明で簡潔であり、課題解決に向けて最後まで集中できると思いました。  
最後に「【観点3その他】」についてご説明いたします。  
QRコードの映像・音が豊かで、興味関心が高まり、個人・家庭での学びが可能だと思いました。  
行間・字体・ページ割り振りがUDを意識していてやさしいと感じました。  
巻末の探究シートは楽しくできるように工夫されていると思いました。

説明は以上でございます。

(議長)  
ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)  
主体的・対話的で深い学びを実現するためにどのような工夫がされていますか。

(専門員)  
5者とも、主体的・対話的で深い学びを意識して作られていると感じました。その中で大日本図書や啓林館は「教えること」「考えさせたいこと」が明確になっていて、子どもたちが主体的に学ぼうとする構成が丁寧に工夫されておりました。東京書籍・学校図書・教育出版

では、情報量が多すぎたり、思考のつながりが欠けていたり、もったいない構成となっております。子どもたちに「考えさせたいこと」「思考のつながり」のバランスが難しいと感じました。

(議長)

音楽について説明をお願いします。

(専門員)

音楽科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「各領域の系統性について」、「教材性について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、調査研究結果を「教育出版」と「教育芸術社」の2者について、3つの観点ごとに比較しながら、ご報告申し上げます。

まず、一般の教科書についてです。

観点の1つめ、「各領域の系統性について」の説明いたします。音楽科の領域は「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4つがあります。そのうち一般の教科書には「歌唱」「創作」「鑑賞」の3つの領域の内容が掲載されています。

はじめに、各領域において、生徒自身がどのように学んでいくのかという見通しをもてるようにするための「学びの地図」の部分です。

「教育出版」では、「学びのユニット」として「うたう」「つくる」「きく」の3つの領域ごとに学びのねらいや教材、取り扱う〔共通事項〕が示されており、題材ごとに、図形を用いてコンパクトに示されています。

「教育芸術社」では、「学習内容」として「歌唱」「創作」「鑑賞」ごとに生徒が身に付けるべき資質・能力と教材、〔共通事項〕を関連させて示しています。また、題材と題材がどのようにつながって学習が進むのかという視点で整理された図で示されています。

「歌唱」についてです。

「教育出版」「教育芸術社」ともに、1年入学当初の斉唱から混声合唱への移行、卒業時の質の高い合唱曲へと発達の段階に応じて教材が配列されています。巻末に様々な種類の合唱曲が用意されており、生徒の実態に応じて幅広い教材の中から選択できるようになっています。

歌唱共通教材の扱いですが、「教育出版」は「日本の歌・みんなの



歌」として、「教育芸術社」は「心の歌」として掲載され、情景を想像しながら表現の工夫ができるよう、美しい風景写真が掲載されています。

更に「教育芸術社」では、各学年に我が国の伝統的な歌唱教材が示されおり、教材選択の幅が広がっています。

「創作」についてです。

「教育出版」は、擬音語や擬態語を用いる創作、ボイスパーカッションの要素を取り入れた創作など、生徒の興味を引く教材を扱っています。

2年に日本の音階「平調子」を用いた創作がありますが、これは1年の鑑賞「六段の調」や「さくら さくら」との関連が深いので、これら2つの題材を連続して配置するなど、学習の流れを活かした教材配列となるよう工夫がほしいところです

「教育芸術社」では、学習指導要領に示された創作の2つの内容、音のつながり方に着目した旋律をつくる内容と、音楽の構成に着目した音楽をつくる内容を明確に分けて記載されています。和音の構成音を活かした旋律創作、リズム素材を活かした創作においては、学年の進行に応じて発展的に扱えるなど、発達の段階に応じた内容の工夫があります。

続いて「鑑賞」についてです。

「教育出版」では、生徒が興味をもって鑑賞できる定番の教材、「四季」「魔王」「ブルタバ」「六段の調」に加え、我が国や諸外国の音楽についても適切に取り上げています。

3年で、オペラと歌舞伎と文楽の舞台芸術を取り上げて比較鑑賞する学習を設定していますが、1・2年の学習の積み上げをもとに、この題材につながっているという見通しがもてるような工夫があるとよいと考えます。

「教育芸術社」では、「教育出版」と同様に定番の鑑賞曲が掲載されています。3年の比較鑑賞では、2年で学習した歌舞伎「勧進帳」を取り上げ、同じ安宅の関の場面を題材にした能と文楽を比較し、伝統音楽の魅力を味わわせるなど、学ぶ内容が明確に示されています。

次に、2つめの観点「教材性について」です。授業で中学生に何をどのように学ばせるのかという視点をもって、様々な楽曲をどのように教材化しているかという観点です。

歌唱教材は「教育出版」「教育芸術社」とともに、多くの生徒が親しみをもって学習に取り組めるよう、様々なジャンルから教材が選択さ

れています。

特に「教育芸術社」では多くの新曲が掲載されており、今後の授業改善に示唆を与える曲や、美しい旋律で生徒の心情に訴える曲が選択されています。

鑑賞教材として「教育出版」「教育芸術社」とともにスメタナ作曲の「ブルタバ」を3年生で掲載しています。

「教育出版」はこれまで1年で学習していた「音楽が描く情景を聴き取る内容」を3年生へ移行しています。これに対して「教育芸術社」では、作曲された当時の国の状況を詳しく解説しており、スメタナの祖国への思いを馳せて鑑賞する内容となっており、3年の発達の段階にふさわしい学習内容になっています。

最後に「その他」についてご説明いたします。音楽の授業において、生徒が聴き取ったり、感じ取ったりした内容を評価するために、ワークシートは非常に重要です。「教育出版」「教育出版」とともに教科書に書き込めるワークシートが必要に応じて準備されています。例えば、ヴィヴァルディの「春」第1楽章の鑑賞では、「教育出版」は「一番面白いと思ったところを紹介する文章を書こう」となっています。これに対して「教育芸術社」は、旋律の特徴や楽器の音色などを聴き取り、その働きによってどのような曲の雰囲気が生み出されているのかを感じ取る内容になっていて、生徒が学ぶべきことが明確に示されています。

続いて、「器楽」の教科書です。観点については「一般」の教科書と同じです。

1つめの観点、系統性についてです。

「教育出版」「教育芸術社」とともに、多くの学校で取り扱うことの多い「リコーダー」「ギター」「箏」について、発達の段階の応じた曲を選択することができるようになっており、また、演奏するとき参考となる写真等も多く掲載されています。

これら以外の楽器は、「教育出版」では、「篠笛」「尺八」「三味線」「太鼓」と我が国の伝統的な楽器のみの扱いであり、各学校の実態に応じた指導計画が作成しづらい面があります。「教育芸術社」では、我が国の伝統的な楽器のほかに、アンサンブルや創作で取り扱うことの多い打楽器についての奏法等が掲載されていて参考になります。

2つめの観点「教材性について」です。

「教育出版」「教育芸術社」とともに、平易な曲から難易度の高い曲ま

で掲載されていて、生徒の実態に合わせた教材選択ができ、また個別の発展的な学習にも対応ができるようになっていきます。

「教育芸術社」では、生徒の活動意欲を引き出しやすいようポピュラー音楽など幅広い分野の楽曲を取り上げ、中学生にレベルに合わせた編曲等をして教材化しています。

「その他」の観点として、「教育出版」「教育芸術社」とともに一般の教科書の「歌唱」「創作」「鑑賞」との関連を図る内容が掲載されています。

また、「教育芸術社」では、小学校からの連続性を意識したソプラノリコーダーの扱いが充実しています。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

これから求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫はどのようになっていますか。

(専門員)

「教育出版」では、「歌唱」「器楽」「創作」において生徒一人一人の表現の思いや意図を、「鑑賞」においては聴き取ったことや感じ取ったことを、交流する中で共有していくなど協働的な活動が展開できるようになっております。

「教育芸術社」では、学ぶべき内容が明確になっているワークシートを手順にそって学習を進めることで、対話的な活動が展開でき、深い学びへと進めることができるようになっております。

(議長)

美術について説明をお願いします。

(専門員)

美術科では「開隆堂」「光村図書」「日本文教出版」の3者について、調査研究を行いました。

調査研究の観点といたしましては、「生徒の表現力を高めるための工夫について」、「鑑賞に関する生徒の資質や能力を育成するための工

夫について」、「その他」の、3点を設定し、調査研究を進めてまいりました。

その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、まず初めに「開隆堂」の教科書について、調査研究結果を、観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「生徒の表現力を高めるための工夫」についてご説明いたします。

全ての項目にQRコードがついており、参考作品や制作時の道具の使い方など、生徒に分かりやすく提示でき、生徒の制作イメージも高めやすい工夫がみられました。また、各単元に「学習のポイント」が示されており、創作活動する際に生徒が作品を考え、イメージするポイントを押さえやすくなっており、活動の見通しをもちやすくする工夫が感じられました。反面、1年生の教科書の11ページ等に見られる「美術の用語」【絹本着色（けんぼんちやくしよく）】など、専門的すぎるものもあり、生徒に分かりやすく伝えるための工夫が必要であると感じました。

次に、「鑑賞に関する生徒の資質や能力を育成するための工夫」についてご説明いたします。

掲載作品には、「作者の言葉」が記されており、生徒が鑑賞する際に作者の制作の意図や作品への思いを理解しやすくなっております。反面、QRコードからデジタル教材として示される「アーティストファイル」は、説明が長文になっており、読んだだけでは理解しづらさを感じました。作者自身や、作品の写真などが掲載されると、より生徒の関心を高めることができると考えます。

最後に、「その他」についてご説明いたします。1年生用、2・3年生用ともに、巻末に「学びの資料」が掲載され、情報量も多く、制作時に役立つ内容であると感じました。また、参考作品数は3者のうちで最も多く、1年生用の教科書は約160点、2・3年生用の教科書は約400点が掲載されていました。教科書はA4ワイド判で、2冊の重さは736gです。

次に、「光村図書」の教科書についてご報告いたします。

「生徒の表現力を高めるための工夫」につきましては、QRコードを用いて作品を観察にする際に、音声や動画による説明があるなど、生徒は作品をイメージしやすく、生徒の表現力を高める一助になっていると感じました。また、「デザイン・工芸」の分野では、多くの作品が色彩豊かに掲載されており、生徒の創作意欲を高める工夫が感じられました。さらに、巻末の「学習を支える資料」は、生徒に、制作活

動時に理解させたい内容が多く、作業時の「注意点」が黄色で示されている点も、生徒の活動を助ける構成になっていると感じました。

「鑑賞に関する生徒の資質や能力を育成するための工夫」につきましては、鑑賞に係るすべての項目に「鑑賞のポイント」が提示され、生徒が作品を鑑賞する際に、生徒同士の対話的な活動を促す工夫が感じられました。反面、「デザインや工芸など」の分野では、「鑑賞のポイント」として示されている「作品の共通点」など、答えがわかりにくく、作品の提示の仕方に工夫が必要であると感じました。

「その他」といたしましては、項目ごとに「特別の教科 道徳」との関連が示されており、道徳の内容を意識しながら学習に取り組める工夫がみられました。参考作品数は、1年生用の教科書が約160点、2・3年生用の教科書は約190点で、ともにA4判で2冊の合計重量は700gです。

最後に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

「生徒の表現力を高めるための工夫」につきましては、参考作品の提示の仕方や写真の配置に迫力があり、生徒の創作意欲を喚起するとともに、各作品には「造形的な視点」が示され、生徒が、掲載作品を参考にしながら自分の作品を制作する際に、その活動を支援する工夫が感じられました。また、「作者の言葉」を付けた生徒作品が多く掲載されているとともに、「学びの目標」が具体的で分かりやすく示され、制作のめあてが明確になっていると感じました。さらに、QRコードによるデジタルデータにつきましては、立体作品の「360度鑑賞」などが可能になっており、生徒の空間認識を高められる工夫が感じられました。

「鑑賞に関する生徒の資質や能力を育成するための工夫」につきましては、原寸大の鑑賞図版を含め、見開きのページを効果的に用いて鑑賞作品が大きく掲載されており、作品の細部までを深く見つめ、作品を味わうことができる工夫が感じられました。反面、ほぼ全てのページに「鑑賞」のマークがついておりますが、鑑賞の視点を言葉で表すなど、掲載されている作品のどこを意識して鑑賞すればよいのかを示す工夫が必要であると感じました。

「その他」につきましては、各教科書の初めに「教科書の見方」が示されており、教科書の使い方がわかりやすく示されており。2・3年生用の教科書が上巻と下巻に分かれ、計3冊になっているところが他者との大きな違いで、参考作品数は1年生用の教科書は約120点、2・3年生用の教科書は上・下巻合わせて約240点、すべてA4ワイド判で、3冊の合計重量は896gでございます。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

ユニバーサルデザイン等、生徒一人一人を大切にするような配慮はどのようになされていますか。

(専門員)

3者とも意識して作成され、カラーユニバーサルや、ユニバーサルデザインフォントの使用が見られます。

(議長)

保健体育について説明をお願いします。

(専門員)

保健体育科では、4者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料について」、「課題解決の流れがわかりやすく、工夫されているかについて」「その他」の3つを設定しました。

その結果につきましては、お手元の報告書の通りです。

それでは、**東京書籍**について調査研究結果を観点到に沿ってご報告申し上げます。

はじめに【観点1】「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料」についてご説明致します。

章末資料や技能実習資料が多く、写真やイラストも効果的に載せてあり、学習を深め広げるための工夫がなされています。挿絵や図表もとても見やすくなっています。応急手当の実技学習において、包帯法、三角巾の使い方、損傷部位の固定方法等、細かく説明がされており、生徒にとってもわかりやすい資料になっています。

章によっては、資料の挿絵が少なく、授業の時に参考にすることができないこともあるので、工夫が必要である。と考えます。

次に【観点2】「課題解決の流れがわかりやすく、工夫されているか」について、主なものをご説明致します。

1時間の流れが「見つける・課題の解決（活用する・考える）・広げる」となっていて、課題解決までの過程がわかりやすく工夫されています。

「活用する」で授業のまとめとして、主体的・対話的な活動ができるよう、設定されていて、今後の生活に役立てることができると思います。交通事故、応急手当、自然災害時の対応等、生徒が将来直面する課題に対して、状況を把握する力、瞬時に判断すべき内容について、考えを深められる設定になっています。様々な課題に対して、数人で知恵を出し合わないとは解決できないいわゆる「ジャンプの課題」設定がなされていて、経験の浅い教員においても、主体的・対話的で深い学びを行うにあたって、苦勞なく積極的にできる設定になっています。

最後に【その他】についてご説明致します。

章末資料が多く、授業のつながりを意識した資料として活用できるように工夫がされています。学んだ内容を深め、今後活かせる場として、わかりやすく、重要な資料が提示されています。

次に大日本図書についてご説明致します。

まず【観点1】「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料について」についてご説明致します。

口絵が14ページと多く、写真も大きく豊富です。私たちの生活とスマートフォンなど身近な内容も掲載されています。

本文と挿絵・図表がページをまたいで分離しているため、学習の流れの中で資料を活用しづらいという面があり、工夫が必要であると考えます。

次に【観点2】「課題解決の流れがわかりやすく、工夫されているか」についてご説明致します。

本文や資料を活用しながら、課題解決ができるように、いろいろな活動が示されています。

どこに課題があり、どこで調べ、考えさせ、どこで深めていくのかが明確に表示されておらず、授業の展開がしにくくなっているため工夫が必要であると考えます。

最後に【その他】についてご説明致します。

章末の資料が少ないように感じます。また、学習のまとめの問題がWEBサイトからになっているため、教科書に載せるなどの改善が必

要であると考えます。

次に**大修館書店**についてご説明致します。

まず【観点1】「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料」についてご説明致します。

学習のまとめりごとに、写真・イラスト・表やグラフがバランスよく配置されています。

図は実物に近い形で表示されています、生徒にとっては難しさも感じられるように思います。多くの色彩が使われていますが、見づらいという感覚をもつこともあります。

次に【観点2】「課題解決の流れがわかりやすく、工夫されているか」についてご説明致します。

コラムや事例が4者の中で最も多く取り扱われており、本文に関連した読み物を読んで知識が広げられるように工夫されています。

課題の設定が行われても、その後の調べ・考えて深めるという手順が表示されていないので、調べる部分、深める部分の課題も必要であると考えます。

最後に【その他】についてご説明致します。

がん教育の項目について、4ページの扱いであり、特集資料のページを合わせると5ページと4者の中で最も多くの紙面を割いています。

次に**学研教育みらい**についてご説明致します。

まず【観点1】「適切かつ効果的な挿絵・図表を含めた資料」についてご説明致します。

資料や挿絵が大きく見やすくなっています。具体的には、心配蘇生法の具体的な流れが表示されており、非常にわかりやすくなっています。課題解決に対して必要な資料を厳選して掲載しており、意欲を高めて学習に取り組むことができます。

またイラストから、その場の状況や人の心情がわかりやすく、理解力の低い生徒も興味をもって学びに加わることができるように感じます。「性とどう向き合うか」や「思春期におけるスマートフォンの扱い」等、イラストを上手に活用しており、生徒がまさに今直面している課題として捉え、学ぶことができるよう、資料が提示されています。

4者の中で、挿絵・図表・イラスト等が一番充実していると感じます。



次に【観点2】「課題解決の流れがわかりやすく、工夫されているか。」についてご説明致します。

導入の段階で、生徒の興味を引くような発問がなされていて、日常生活との関連を意識でき、授業に入りやすくなっています。（生活習慣病とその予防、がんとその予防、喫煙と健康等が顕著でスムーズに授業に入っていける設定になっています。）

課題等の内容にチェック項目が多いように感じます。展開の中で生徒が主体的、対話的な学びを実践できるような課題設定を行う工夫が必要であると考えます。

最後に【その他】についてご説明致します。  
色覚に特性がある生徒に配慮されたユニバーサルデザインを採用しています。

脈拍数の測定方法、発育曲線の名称等の課題がると考えます。

説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

心肺蘇生法やAEDについてどのように分かりやすく工夫されているか教えてください。

(専門員)

学研が1番簡潔で分かりやすく、生徒が理解しやすくなっていると思います。大修館書店は見開きで大きく説明しています。東京書籍と大日本図書は平均的です。

【休憩】

《休憩》

(議長)

技術・家庭について説明をお願いします。

(専門員)

技術・家庭科では3者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、技術分野では「技術の見方・考え方を働かせ、持続可能な社会を構築する資質能力の育成について」、「主体的に思考・判断・表現しながら、技術による問題解決に取り組む学習の

充実について」、「その他」の3つを設定しました。また、家庭分野では、「見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な活動の充実について」「問題解決的な学習を通じた、思考力・判断力・表現力の育成について」「その他」の3つを設定しました。その他の結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、技術分野の「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに、観点1について、主なものをご説明いたします。折り込みページの「最適化の窓」から、生活や社会を見ることで、技術の「見方、考え方」を捉えられるよう工夫しております。また、各内容のまとめに、「見方、考え方」を生かして未来とどう向き合うべきかを考えさせる記入項目が整理されている反面、選択する情報が物足りないとの指摘もございます。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。この観点では、問題を発見させる場面では、「問題解決カード」を使い、主体的に問題解決学習に取り組めるよう工夫しているとともに、つまずきへの対応策も工夫されております。また、構成内容が統一されており、どの分野から学んでも生徒の思考が深まりやすい工夫がなされております。

次に、「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに観点1について、主なものをご説明いたします。「見つける」の生徒と先生の対話により、技術への関心を喚起して、生徒が自覚的に「見方、考え方」を働かせることができます。また、社会で活躍している人々に焦点をあて、未来社会を考察できる特集ページが掲載されておりますが、情報量が物足りないとの指摘もございます。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。生徒が問題解決的な学習に迷わないように、それぞれの分野で設計・計画の手順を4つのステップで構成されております。また、編ごとにステップの内容が工夫されており、基本形からの選択が出来たり、記入しながら思考を深めさせたりするなどの工夫がなされております。

最後に、「開隆堂」についてご説明いたします。

はじめに観点1について、主なものをご説明いたします。ガイダンスから各分野の内容まで、取り組み方を共通化しており「見方、考え方」が捉えやすい工夫がされております。また、各内容最後の「未来とのつながりを考えさせる場面」では、「利用者」「技術者」両方の視点から評価しております。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。ガイダンスやものづくりの場面で適宜PDC Aサイクルの流れがわかるように表示を工夫しており、PDC Aの流れを意識した実習・学習の展開がまとめられております。また、各内容において、トレードオフの関係に気付けるトレードオフマークが表示されており、「技術の最適化」に向けた実践的な問題解決能力を育む工夫がされております。

技術分野の説明は以上でございます。

それでは、引き続き家庭分野の「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに観点1について、主なものをご説明いたします。「見方・考え方」の一つである伝統文化とのかかわりについて、どの分野でも資料が豊富である。特に、「和服の文化」では様々な観点を幅広く取り上げております。また、実践例が豊富で、生徒の実態に合わせて選ぶこともでき家庭でも実践しやすいが、情報量と文字数が多いぶん、必要な情報を選択しにくいと捉えることもできます。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。小題材ごとに、「考えてみよう・調べてみよう・話し合ってみよう・やってみよう」というコーナーが設定されており、学習の始めにできる活動例が記載されております。生活の課題と実践が、全て最後にまとまって記載されておりますが、分野の最後に記載されていた方が生徒にとって取り組みやすいのではとの指摘もございます。

次に、「教育図書」についてご説明いたします。

はじめに観点1について、主なものをご説明いたします。「見方・考え方」を養うための学習の流れとして、各学習ページに「みつめる」「学ぶ」「振り返る」の3ステップが設定され、繰り返し行える工夫がされております。また、「見方・考え方」の一つである伝統文化とのかかわりについて、衣生活の和服についてはイラストがほとんどで、構成や文化についての情報が少ないとの指摘がございます。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。小題材ごとに「やってみよう」のページでは、みつめる・学ぶ・振り返るの、3ステップで構成されている。そのため、主体的・対話的で深い学びにつながる構成となっております。また、導入・やってみよう・学びを生かそう・章末のまとめの学習の流れで構成され、「学びを生かそう」では、既習事項を生かし学びを深めることが期待できる内容となっております。

最後に、「開隆堂」についてご説明いたします。  
はじめに観点1について、主なものをご説明いたします。衣生活の製作例では、実生活に活用しやすい作品例が豊富であり、古着のリメイクなどが多く記載され、「持続可能な社会」への見方・考え方を生かした実践が期待できる内容となっております。また、「見方・考え方」の一つである伝統文化とのかかわりについて、和服と洋服の構成や着用について重点的に説明され、特に浴衣の着用については見開き構成となっており、実践的・体験的な活動に結びつきやすい構成となっております。

次に、観点2について、主なものをご説明いたします。小題材ごとに、「話し合ってみよう・やってみよう・考えてみよう・発表しよう」というコーナーが設定されており主体的・対話的で深い学びにつながるることができる構成となっております。また、生活の課題と実践が、全て最後にまとまって記載されて、取り組みやすくなっております。

家庭分野の説明は以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

技術分野の方で、プログラミング教育について小学校で始まっていますが、中学校の技術・家庭科としてどのような工夫がされていますか。

(専門員)

3者とも大きな違いはございません。小学校とのつながりを意識した構成となっております。

(委員)

家庭分野の方で、特別支援教育の視点でどのような配慮がなされていますか。

(専門員)

大きな違いはございませんが、3者とも色使いやフォントなど、ユニバーサルデザインに基づいた構成となっており、十分に配慮がなされています。

(議長)

外国語・英語について説明をお願いします。

(専門員)

英語では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「コミュニケーション活動の充実について」、「教科書の使いやすさについて」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、まず「【東京書籍New Horizon】」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

1年生の教科書Unit1～Unit5のすべてのpartにEnjoy Communicationが入っており、小学校で慣れ親しんだ「表現」を使った「話す」活動が充実しています。

2～3年生ではLet's talk やLet's listenが随所に盛り込まれており、コミュニケーション活動の充実が図れるように工夫されています。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

Unit扉やpreview（予告編）では、題材や文法項目についての英語を聞き、題材についての興味を引き出した上で、その後の学習に取り組めるように工夫されています。

どの学年も、語彙や基本文など、言語活動を行う際に必要な情報がコンパクトにまとまっており、大変使いやすくなっています。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

他の教科書とは違い、A4判となっており、見やすいだけでなく、語彙も豊富に扱っています。また、小学校ではNew Horizonを使用していますので、スムーズな接続が可能となります。

次に、「【開隆堂Sunshine】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

Tryは毎時間の帯活動で行うSmall Talkのコーナーとなっており、小学校での既習内容を生かしたペアワーク活動を無理なく頻繁に行うことが可能です。

Our project、Power-up、Interactコーナーでは、「伝え合う能力」、「話し合える能力」等を段階的に身につけられるような活動を数多く設定してあります。

Our project 企画では、「私が選んだ一枚」「夢の旅行」「あなたの街を世界にPRしよう」など3年間で9回、Power-up 学力向上では「電話」「天気予報」「道案内」「買い物」の場面、Interact相互作用では、新出文法を用いた会話のやりとりとなっております。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

Scenesでは実際の言語材料の使用場面を漫画形式で導入でき、その後本文の内容理解等の活動に入ることができる構成になっています。

新出文法を漫画形式で導入するScenesのまとめや、Q&A、アクションカードなど、活用しやすい巻末資料が豊富です。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

Retell（繰り返す、再び語る）において、読んだ内容について自分の言葉で表現する場が設けられています。

次に、「【三省堂New Crown】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

各LessonのTalkの部分で会話練習やクイズを出し合う形になっており、生徒が興味・関心をもって取り組むことができます。

Take Action!のTalk、GET Plus、Word Bankを用いて、様々な場面を想定したコミュニケーション活動を行うことができます。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

各lessonでは、Get(学ぶ)、Use(使う)、Take Action(発展)、文法のまとめ(確認)という一連の流れができており、活用しやすい。

role play等、教科書を見ながら発展的な活動に取り組むことができますが、生徒の実態に合わせて難易度を調整する必要があります。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

本文で扱われる題材が多岐にわたっており、生徒の視野を広げることができます。

次に、「【教育出版One World】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

「Useful Expressions」や「Project」のコーナーでは、さらに実践的なコミュニケーション活動を通じて、英語で表現・発信する力を身につけることができます。

各Lessonにおいてのコミュニケーション活動が少ないので、活動を増やす必要があります。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

Part1,2は、主に会話文となっており、その中で新出文法にも触れられているが、実際の使用場面を想定しづらい導入になっているところもあります。

語彙やQ&A、基本文などが見やすくまとまっており、全て赤シートで隠しながら活用することができます。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

Activities Plusでは、「話すこと [やりとり]」の力を引き出すことができます。

次に、「【光村図書Here We Go】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

国際理解を深め、電話や道案内などの表現を使う場面が豊富にあり、コミュニケーション活動の充実を図ることができます。

帯教材Let's Talk!では、This Is Me, My Life, My Futureという3つのテーマで友だちと即興でやり取りする活動を継続的に行えるように工夫しています。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

教科書を開いた際に、文章や文字の量が多いと感じるため、英語が得意でない生徒に対する支援や指導の工夫が必要となる場面があります。

3年間一続きのストーリーになっており、生徒の教科書への興味を引き出せるとともに、ストーリーに沿って自然に言語材料を学ぶことができます。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

Active Wordsや「英語のしくみ」などの巻末資料が充実している。

次に、「【啓林館Blue Sky】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてご説明いたします。

Let's TalkやUseにおいて、身近な場面を想定した会話活動を行い、新出文法の理解を深め、重要表現の定着を図ることができます。

Targetのまとめでは、各Partで学んだ新出文法を振り返り、Let's Tryで会話や発表練習を行い、文法事項の定着を図ることができます。

次に、「【観点2】」について、主なものをご説明いたします。

本文が会話形式になっているところが多く、会話の中で新出文法や重要表現等を学び、活用することができます。

歌や語彙など、必要な情報がまとめられていますが、発展的な活動等につなげるための工夫が必要です。

最後に「【その他】」についてご説明いたします。

Read and Thinkでは、Unitで学んだことを確認できる発展問題になっています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

学習指導要領の改訂のポイントと合わせて、高等学校から移行した内容はどのようなものがありますか。

(専門員)

学習指導要領の改訂のポイントでございますが、小学校から高等学校までの継続的な学習の重要性が明記されるとともに、「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」必要性が言及されており、「気づきを促す」「見通しを立てる」「繰り返し行う」などアクティブ・ラーニングに支店が学習指導要領に取り入れられました。また、「小学校で学習した語句や表現の定着」や「授業は英語で行うことが基本」であることも明記されました。

次に、高等学校から移行した内容でございますが、主に3点ございます。1つは主語＋動詞＋人＋原形不定詞の文構造でございます。たとえば、I helped my sister do her homeworkのようにtoを使わない不定詞です。2つ目は、現在完了進行形です。例を挙げますとI have been reading this book.のような文で、現在完了形にingが続きま



す。最後に最も大きなものとして、仮定法が入ってきました。I wish I were a bird. If I had wings, I could fly. のような文となります。

(

(議長)

特別の教科 道徳について説明をお願いします。

(専門員)

道徳科では7者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」、「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

① それでは、「東京書籍」についてご報告申し上げます。

はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。

3学年ともいじめの発生しやすい年度初めにいじめに関する題材を多く配置しています。また、いじめ発生の件数が最も多い1学年においては、早期かつ重点的にいじめに関する教材を配置して重点的に学習を行うことができます。

次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。話し合いを充実させ、生徒相互の考えをふかめるために、「話し合いの手引き」のページが設けてあり、これを活用することで自分の考え方を明確にしたり、友達の考えについての理解を深めたりすることができるように工夫されています。

また、ホワイトボードや心情円が巻末についているので、これらの教具を使用することで効果的に話し合いを行うことができます。

最後に「その他」についてです。

いじめのユニットでは全学年共通の作者の教材を用いるなどの工夫をし、系統性を持たせています。

② 次は「教育出版」についてご報告申し上げます。

はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。

いじめや命の大切さを取り扱う題材を連続して設定し、集中して学習できるようにユニットを配置しています。また、いじめが増加しやす

い時期に重点的に配置しています。  
次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。  
教材のねらいとなるテーマがわかりやすい文章で表現されているので生徒が見通しを持ち授業に取り組めるようになっていきます。また、教材末の「学びの道しるべ」では学習の流れが明示されており、生徒が問題意識を持ちやすくなる発問や、答えが1つでない課題の発問が投げかけやすくなる工夫がされています。  
最後に「その他」についてです。  
定番教材が多く掲載されていますが作品の背景を理解させるのに工夫が必要と考えます。

③ 次は、「光村図書」についてご報告申し上げます。  
はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。  
命の大切さや生命尊重をテーマとした教材を偏りなく配置しています。また、年度当初に配置された教材は、進級に対するものが主であるため、いじめに関する教材の実施時期を早めるなどの工夫が必要と考えます。  
次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。  
発達段階を踏まえた学びのテーマを設け、年間を3つのシーズンに区切っています。折込の「学びの記録」をシーズンごとに記述することで生徒の成長を見取りやすいように工夫されています。また、教材末の考えようではめあての提示しており、課題設定と中心発問を考えた後、めあてに戻ることで生徒自身が考えをまとめやすくなる工夫がされています。  
最後に「その他」についてです。  
ノーマライゼーションの観点からも漫画や写真が効果的に配置されています。

④ 次は、「日本文教出版」についてご報告申し上げます。  
はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。  
いじめに関して複数の教材をセットで配置したユニットをつくり、ユニット全体の導入と実施後のコラムによって充実を図っています。また、間接的に扱う教材もあるため、指導に工夫が必要と考えます。  
次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。

問題解決的な学習の教材や体験的な学習の教材では生徒が主体的に進められるよう、何について考えるのか明示するなど工夫されており、授業の展開がイメージしやすくなっています。また、発問の仕方次第では教材のねらいとなるテーマが多様な価値観を生みにくくなってしまうので指導者の工夫が必要と考えます。

最後に「その他」についてです。

教材に対応した道德ノートが付属されており、自己の成長を振り返ることができると考えます。

⑤ 次は、「学研教育みらい」についてご報告申し上げます。

はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。

生命の尊さについて比較的多く取り扱われ、命に関わる教材には専用の記号を用いるなどの工夫がされています。また、命の大切さに関する教材では、多角的に考えられるように配慮されています。

次に、「考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について」です。

主題名やめあてを載せないことで生徒が主体的に課題を発見したり、授業者が柔軟に主題やめあてを考えたりすることが出来るようにしています。主題名やめあては載せないがキーワードで学びに向かいやすくなっています。また、「深めよう」では「見つけよう、考えよう、話し合おう」や「やってみよう、振り返ろう」など多様な指導方法の提案がされています。

最後に「その他」についてです。

大きいサイズの教科書とグラフ、写真などのさまざまな資料を用いて視覚的に生徒を引き付ける工夫があります。

⑥ 次は、「廣済堂あかつき」についてご報告申し上げます。

はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。

命の大切さに関する教材が全学年に多数配置され、重点的に学習できるように配慮されています。また、いじめに直接関係する教材が、少なめで散在しているため、集中的な配置やより直接的な教材の選定などの工夫が必要と考えます。

次に、「考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について」です。

各教材の最後には内容項目に関連した先人の言葉が掲載されており、導入での考えるきっかけや最後の説話として利用することができます。また、教材末の「考える・話し合う」に記載されている発問の数

が多いので指導に工夫が必要と考えます。  
最後に「その他」についてです。  
終末で活用できる道徳ノートが付属されています。

⑦ 次は、「日本教科書」についてご報告申し上げます。  
はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。  
いじめや命の大切さに関して、集中配置や実施時期の工夫、他のテーマとの関係性を考慮した学習順序の配慮などの工夫が必要と考えます。また、全体的にいじめに関する教材が少なく、取り扱う教材割合を調整するなどの工夫が必要と考えます。  
次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。  
教材のねらいとなるテーマの記述がないので自由度が高くなる一方で、教員の指導力が問われると考えます。また、教材末の「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」では生徒の思考を揺さぶる間を設定していますが、指導には工夫が必要と考えます。  
最後に「その他」についてです。  
内容項目での掲載のため、学校の特色に合わせて教材を生かす工夫が必要と考えます。

ご報告は、以上でございます。

(議長)

ただ今の説明につきまして、御質問・御意見はありますか。

(委員)

生徒の興味・関心を引き出しながら考えさせることが、考え・議論する道徳において大切であると考えます。一方で、少子化が進む中で生徒の郷土愛を育成することも大切になってきていると考えます。そのような面から、教科書の中で埼玉県に関する人物や教材についてどのように扱われているか教えてください。

(専門員)

各者で、埼玉県にゆかりのある偉人やスポーツ選手等について扱われ、先人の生き方を通して生徒自身の生き方を考えるようになっています。

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>[議長]<br/>     以上で全ての種目の報告が終わりました。<br/>     事務局から、その他の協議事項はありますか。</p> <p>(事務局)<br/>     特にありません。</p> <p>[議長]<br/>     以上をもちまして、議長の任を解かさせていただきます。<br/>     次回の第3回会議は、教科用図書を選定となります。<br/>     なお、埼玉県教科書採択のガイドラインによると、採択期間中に教育委員会及び教職員は、教科書発行者と一切の接触はもたないこととされております。万が一接触を試みる教科書発行者があった場合は、事務局まで報告をお願いいたします。<br/>     もし、そのような行為が報告された場合は、ガイドライン(4)その他の②のとおり「教科書発行者による不適切な行為や公正取引委員会の警告も勘案して、教科書を採択する。」こととなりますので、よろしくお願いいたします。<br/>     本日は、長時間にわたりありがとうございました。</p> |
| 5 諸連絡 | (司会)   |
| 6 閉 会 | (司会)   |